

「ケア内容検討会」の検討経緯

目的

○平成22年度において、子どもの状態を適切に把握する指標の開発やケア標準の作成について検討するため、「ケア内容検討会」を設け、タイムスタディ調査（業務量調査）等のグループインタビューに協力いただいた施設の中から参加を得て、具体的なケアの内容や自立支援計画などについて討議・分析を行い、「子どもの状態に応じた適切なケア」とは何かという共通認識を作成し、ケアの向上を図っていくにあたり必要な議論のために、たたき台の作成を行うこととした。

メンバー

委員長	山縣 文治	大阪市立大学大学院人間福祉学科教授
	筒井 孝子	国立保健医療科学院福祉サービス部福祉マネジメント室長
	西山 秀則	みちのくみどり学園養育部長（児童養護施設）
	大塚 哲司	梅光児童園施設長（児童養護施設）
	山下 学	鳥取こども学園希望館副館長（情短施設）
	中島 喜伸	大村椿の森学園園長（情短施設）

検討経過及び今後

○平成22年7月21日に第1回を開催し、8月24日、10月27日、12月1日、平成23年2月8日の計5回の会合を開催。その後委員間で連絡をとりながら5月にたたき台をとりまとめた。

- ① 委員の所属施設で実際に作成している自立支援計画を基に、支援目標や支援内容の共通項を見出して整理し、支援目標のテーマ分類案等を作成
- ② 各テーマ分類案等ごとに、児童の目標およびその際に行われる職員の支援内容について整理
- ③ 「児童目標と支援方法」の形にとりまとめ

○平成23年度において、新たなワーキングを設け、更に検討を進める。

児童目標と支援方法一覧表

I 基本的生活	
1:	身体的健康に関すること ～身体的成長(身長、体重、体力、視力、聴力、第二性徴等)～
2:	食事に関すること ～栄養バランス・マナー等～
3:	排泄等に関すること ～処理と清潔～
4:	着脱に関すること ～ホック、スナップ、ファスナー、ボタン、紐結び、適切な着衣選択～
5:	身体清潔に関すること ～頭髮、軀幹、四肢に関する衛生観念の育成～
6:	睡眠に関すること ～安定した充分な睡眠リズム～
7:	遊び・趣味等余暇活動 ～施設生活場面における遊び、趣味、交友など～
8:	自己管理等(整理整頓・洗濯・清掃他)
9:	報・連・相 ～幼稚園・学校・バイト先・家庭等からの連絡、外出先などについて年齢に応じた適切な報告・連絡・相談～
II 自己形成等	
1:	自己選択・自己決定 ～意思決定を支え自信を与える。自分で意思決定できる～
2:	自己実現 ～夢を大切に実現できるよう努力する～
3:	自己有用感・自己効力感 ～誰かの役に立つことを喜び社会的自我の基礎を築く～
4:	自尊感情(自己肯定感) ～入所児が自身を大切な存在と感じ、I am OK!と思えること～
5:	自己理解 ～思考パターン、行動パターン等の言語化(国籍問題やルーツを含む～
6:	自己表現 ～失敗を恐れない心～
III 対人関係	
1:	愛着形成(良好な二者関係の基礎) ～特定の職員との退行的時間の共有～
2:	他者理解
3:	集団適応(三人以上) ～他児との協調、他者への配慮を養う～
IV 社会生活	
1:	規範意識 ～社会的なきまりを守る～
2:	適切な金銭感覚の獲得
3:	社会参加 ～地域活動等に参加する～
4:	性モラル形成
5:	リーピングケア
V 学校との関係	
1:	進路の支援(選択)
2:	安定した通学
3:	施設における学習
4:	部活動
VI-1 家族との関係調整・家庭復帰に向けた取組(主たる保護者)	
1:	施設入所にいたった経緯の理解
2:	生活状況
3:	経済状況
4:	子どもの状況に対する理解・対応
5:	家族自身の対人関係・社会性
6:	家族の疾患について
7:	家庭復帰に向けての訓練
8:	関連機関との調整
VI-2 家族との関係調整・家庭復帰に向けた取組(児童本人)	
1:	入所の理由の理解
2:	親に気持ちを話せる
3:	親との関係作り
4:	親と過ごす練習
5:	自身の身の守り方
6:	退所について

I 基本的な生活

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
1：身体的健康に関すること ～身体的成長（身長、体重、体力、視力、聴力、第二次的徴等）～					
				不調や傷病を周りの大人に訴えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を観察し、痛い部位等を触って見せながら身振りや発声で訴えられるよう促す。
				体調・症状について支援職員、学校の担任教員等に説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より児童と健康管理について話をする。 ・定期的に健康診断・検便等を行う。 ・不調、傷病の症状を具体的に教え訴えるよう促す。 ・毎日、健康チェックを行う（起床時、機嫌、食欲、顔色などの観察）。
				できる範囲で体調管理に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的成長や発育状況の確認を行う。 ・食事前つがい手洗いの声かけをする。 ・体調が悪い時受診対応を行う（一緒に受診）。 ・精神科・慢性疾患の受診対応をする。 ・薬等の服薬援助を行う。 ・必要に応じ検温を行う。
				服薬が行える	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の服薬確認、援助を行う。必要に応じ食品に混入するなど工夫する。
				第二次的徴を正しく理解する・自身の体の変化をポジティブに受け入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や状況に応じながら子どもに応じて適切に理解できるよう援助する。
				体調管理に努め、自身で判断しながら休養や通院の必要を支援職員に訴え、行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より児童と健康管理について話をする。 ・定期的に健康診断を行う。 ・不調、傷病の症状を具体的に教え訴えるよう促す。 ・毎日、健康チェックを行う（起床時、機嫌、食欲、顔色などの観察）。 ・身体的成長や発育状況の確認を行う。 ・食事前つがい手洗いの声かけをする。 ・体調が悪い時受診対応を行う（一緒に受診）。 ・薬の服薬確認、援助を行う。 ・精神科・慢性疾患の受診対応をする。 ・必要に応じ検温を行う。
2：食事に関すること ～栄養バランス・マナー等～					
				自分で飲む、自分で食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーン、フォーク、コップの握り等を教え、必要に応じて介助する。
				いろいろな味を楽しみ、好き嫌いをなく食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食材、食品、調理を工夫し、食の経験を豊かにする。
				落ちていたり物や誰の物が分からない物を口に入れない。	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児が口に入れてはいけない物を放置しない（安全への配慮）。 ・異物を口に入れてしまった場合は、驚かさぬよう注意しながら、はっきりとダメであることを伝える。
				食べ過ぎないで適量の食事を摂る。	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳（自分でご飯等を盛る）支援 ・食器、弁当箱の洗い方支援 ・嗜好調査（栄養士が中心となって） ・食後の掃除 ・児童禁止食品の確認 ・肥満児童への食事支援 ・子どもに合わせて好き嫌いを理解し適量を盛りつける。（自発的な手伝いを認める） ・食材の買い物と一緒にいく。 ・外食するなど食に対する情報を与える。 ・栄養士を中心に、バランスのとれた献立をたてる。 ・調理補助の経験機会を与える。 ・メニューに応じ食器を用意する。 ・食材や調味料等の買い物、調理、盛りつけなどを見せ、子どものアイデアを取り入れる。
				食べず嫌いや好き嫌いをしないで、さまざまな食品を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳の際に食事量を確認し、必要時には指摘をする。 ・間食を把握し必要に応じて調整を促す。 ・偏食に対して、一口だけでも食べられるよう支援する。 ・職員が子ども時代に嫌いだった食品を話題にし、どんな風に克服したかについて経験を聞かせ、食べてみようというチャレンジ心を刺激する。
				メニューに応じた食器の選択とマナーの習得。	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳時にお皿が良いか鉢が良いか、箸が良いかフォークが良いかを子どもに尋ねたり、実際に配膳を任せるなど食に積極的に関わられる機会を与える。
				落ち着いて食事を摂る	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の子どもが居る場でも、落ち着いて食事を摂れているか確認、促しの実施。 ・他児が刺激になる場合は、1人で落ち着いて食事を摂る空間を用意する。
				社会的場面での食事マナーの習得。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の食事場面で、配膳位置や調理ごとに異なる食べ方について教えたり、外食機会を設け洋食器の扱い順序等を体験させる。
				栄養について知り、バランスのとれた食事を心掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士と一緒に自炊訓練をするなど、献立を話し合う段階で簡単な栄養バランスについて教える。 （・退園時に栄養士手作りの一人暮らし献立レシピを手渡す）

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
3：排泄等に関すること ～処理と清潔～					
				○ 排尿・排便を周りの大人に知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・下腹部や臀部を触ったり、「ウンチ」「シッコ」など言葉で伝えられるよう促す。 ・排泄指導の職員の基本的態度として、排泄に罪悪感を持たせることがないよう、失敗しても嫌な顔をしたり叱ったりせず笑顔で励ますよう心掛ける。排泄に関して抱くネガティブイメージは意外に心の傷となる場合があり、他の精神症状に繋がる可能性があるため留意が必要。当然、上手にできたときには誉め、自信を与える。
				○ 尿意や便意を周りの大人に伝える。	
				○ 自分で排泄（おまる等）する。トイレの水を流す。	
				○ 排泄後、清潔に処理（お尻ふき等）をする。	
				○ トイレを清潔に使用する。	
				○ 失敗時の報告、片付け、着替えをする。	
				○ （女子）生理用品の正しい使用と適切な処理の習慣化。	
				○ （男子）汚れた下着等を適切に処理する。	
4：着脱に関すること ～ホック、スナップ、ファスナー、ボタン、紐結び、適切な着衣選択～					
				○ 自分で脱ぐ。自分で着る。自分で穿（履）く。	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じて介助しながら、時間が掛かってでもできるだけ本人にやり遂げさせ、子どもの意欲を損なわないよう留意する。
				○ ファスナー、スナップ、ホック、紐結び等の動作を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・連続する複数動作の一つ一つの動作を獲得する度に誉め、意欲を高める。
				○ 季節や当日の天候に合わせた着衣を選択する。	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替えなど定期的な衣服の入れ替え支援 ・日々の衣服状況の見守り（気候、天気を考え体調を子どもに確認の上）
				○ 季節に合わせた服を着ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・行事などの際の衣服準備支援
				○ イベントや礼典等に応じて適切な着衣や靴、持ち物を選択する。	<ul style="list-style-type: none"> ・月ごと（季節ごと）に衣類の調整、買い足し等の支援 ・登校時、外出時等に衣服の状況の確認と支援を行う
				○ 制服を着崩さずに着ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・姿見の鏡を用意し、子どもが自分でチェックできるようにする。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
5：身体清潔に関すること ～頭髮、軀幹、四肢に関する衛生観念の育成～					
				怖がらないで支援職員に洗顔や洗髪、散髪や爪切り、耳かき、歯磨き等を任せられる。	・穏やかで優しい声掛けを心がけながら介助し、清潔が保たれていることを伝え一緒に喜ぶ。「綺麗になったよー」等。
				自分で洗顔、洗髪、背中以外の体洗い、手洗い、うがい、歯磨き等をする（※仕上げは支援職員）。	・できるだけ支援職員も子どもと一緒に（やって見せ）しながら楽しく行い、習慣化できるよう援助する。
			○	ある程度綺麗に洗顔、洗髪、体洗い、手洗い、うがい、歯磨き、爪切りをする。	・入浴時の見守り ・日々の洗面、歯磨き、手洗い、うがいの見守り ・定期的な爪切り、耳かきの声掛けや支援 ・洗体、洗髪の見守りと援助（一緒に風呂に入り指導する） ・日々の洗面、歯磨き、手洗い、うがいの確認
			○	衛生観念を養い、清潔を保つ。	・衣服や下着の汚れ、無精髭など同性の職員が声掛けし意識を高める。
6：睡眠に関すること ～安定した十分な睡眠リズム～					
				安心して入眠する。しっかり眠る。	・就寝時の着替え等 ・本読み ・夜尿起こし ・夜尿シーツの準備 ・就寝時間、起床時間を設定しておく。 ・布団シーツ、パジャマ等常に清潔にしておき心地よく寝れるようにする。
			○	十分な睡眠を取り、爽やかに目覚める。	・安心して寝れるよう添い寝をする。 ・入眠中の巡回確認 ・入眠感の声かけ確認と寝起き状況の確認をする。 ・声かけによって起床を促す。 ・天候の良い土日を利用して支援職員と一緒に定期的に布団を干すよう促す。
			○	体調を考慮しながら十分に睡眠を取る。	・目覚まし時計を貸与し、自覚を促す。
			○	目覚まし時計等を使って自分の意思で目覚める。	
7：遊び・趣味等余暇活動 ～施設生活場面における遊び、趣味、交友など～					
				おもちゃや絵本、創作活動など一人遊びに熱中する。	・導入としておもちゃを使って一緒に遊んだり、絵本を読み聞かせる。
				おもちゃや物を何かに見立て、イメージを膨らませて遊ぶ。	・見立てたイメージについて語らせ、喜怒哀楽豊かに子どもの話に反応する。
				平行遊びをしながら同年代他児と一緒に空間で過ごす。	・遊び時間を設定し、子ども同士で自由に遊べるようにする。
				他児との関わりを楽しんだり、ごっこ遊びをする。	
			○ ○	様々に発想しながら遊びを創造する。	・地域の友達との交流支援 ・地域の展示会・芸術発表 ・招待行事の参加等の引率支援 ・スポーツ・芸術のサークル、クラブに積極的に促し、参加させる。 ・体験を増やしていく。
			○ ○	特定のスポーツや芸術活動、知的満足を得ること等に熱中する。	・職員と一緒にする。 ・社会的なつながりの体験に慣れさせる。
			○ ○	仲間と一緒に好きなこと（テレビゲームや携帯ゲームを除く）をして楽しむ。	

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
-------	------	-----	--------	------	------

8：自己管理等（整理整頓・洗濯・清掃他）

○				オモチャを出す、片付ける。洗濯物を洗濯筆に入れる。ゴミをゴミ箱に捨てる。	・子どもに分かりやすい場所に子どもが扱いやすいように筆などを置き、片付けを促す。
	○			自分の持ち物を自分の収納スペースに片付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯支援 ・定期的に私物の確認を行う ・季節に応じた衣類の整理整頓 ・おもちゃ等の定期的な消毒 ・ケースによってはチェック表、トークンを活用し承認する ・各自の収納スペースを確保する。 ・共有するものに関しても収納スペースをはっきりさせておく。 ・使ったら元に戻すように声かけし促す。 ・個人の持ち物を自分のものとして大切にできるよう促す。 ・部屋の整理整頓、習慣化できるまで職員と一緒に片付け導く。 ・整理整頓されていると使いやすいことを強調し、意識づける。 ・使ったものの片付けを声かけし習慣づける。 ・持ち物への記名をする。（自分で記名したい子についてはさせる）
	○			みんなで使う物を使用後、決められた場所に片付ける。	
	○			洗濯物を洗濯機もしくは洗濯筆に入れる。	
	○			固有スペース（ベッド、机、タンス等）の整理整頓ならびに清潔を保ち、適度な清掃を心掛ける。	
	○			自分の持ち物に記名したり他に紛れない工夫をする。	
		○		共有スペース（食堂、廊下、集会室、体育館、グラウンド、浴室、トイレ等）の整理整頓や清潔に気配りし、進んで環境改善のために努力する。	
			○		

9：報・連・相 ～幼稚園・学校・バイト先・家庭等からの連絡、外出先などについて年齢に応じた適切な報告・連絡・相談～

○				トイレ等一人で行動する際に、近くにいる大人に声を掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況が把握できるように、具体的に質問をする（責める言い方にならないように注意する）。 ・単語で答えられるように質問をする。 ・状況を整理し、児童に再度確認をする。 ・その都度、言い方、伝え方（起承転結、5W1Hなど）の練習を行なう
○				遊びの中での出来事や幼稚園での出来事等を身近な大人に話す。	
○				困っていることなどを身近な大人に相談する。	
	○	○		危険や災害を察知した際、速やかに支援職員に報告し相談する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携 ・地域学校等との連絡調整 ・支援学校との連絡会等 ・危険な状況などの報告するよう指示する。 ・災害などの避難、危険回避の訓練をする。 ・危険、災害時の報告相談の支持を徹底する。 ・災害時にどのように行動するか訓練をする。
	○	○		学校、クラブや部活、地域の子供会や遊びの中での出来事を支援職員に話し、必要に応じて相談する。	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から何でも話せる関係性を構築するよう努める。
	○	○		学校や子供会、クラブや部活等からの連絡やプリントを速やかに支援職員に報告・伝達する。	
	○	○		家族や他の支援職員等からの伝言を当該支援職員に正しく伝える。	
	○	○		外出する際、①誰と②どこへ③どうやって行き④何時頃に戻る予定が事前に支援職員に伝える。	
			○		<ul style="list-style-type: none"> ・小舎制の場合、職員がユニット（ホーム）を不在にする際は予め入所児と隣接ホーム職員並びに事務所職員に伝えて、子どもに隣接ホーム職員及び事務所職員に①②③④を伝えてから外出するよう指示。職員は連絡漏れのないよう努める。

Ⅱ 自己形成等

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
1：自己選択・自己決定 ～意思決定を支え自信を与える。自分で意思決定できる～					
				○ 自分のやりたいこと遊びなどを選びチャレンジする	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の担任と連絡を取り何に興味を持っているか何に取り組んでいるのか把握しその子どもに声をかけ協力する。 ・子どもと一緒に遊ぶ。 ・幼稚園の設定保育や自由保育場面で自ら遊びを見出したり創出したりして楽しめているかについて話題にし、子どもの言葉に耳を傾ける。この目標について幼稚園教員の評価と支援方法について懇談等を通じ話し合う。 ・「どうしたいか」を意図的に問いかけ、自分の気持を言う訓練をする。 ・したいことが叶えられる体験を提供する。
				○ 幾つかある中から遊びたいおもちゃ、身に付けたい着衣や靴などを選ぶ。	
				○ 自分のしたいことを選択し決める。	
		○	○	自分が意欲を持って活動できることを見つける	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での活動を担任と連絡を取り、把握しておくそして家でもいろいろな種類の活動に導いて幅を広げる。 ・思いっきり子どもが活動できるように協力する。(用意、準備 etc) ・国語、算数(数学)、理科、社会、英語、音楽、美術(図画工作)、家庭科、体育など教科毎の目標を能力に応じ個別に話し合い、子どもの努力を認めたり成果を誉める(子どもが持ち帰るテストの答案や成績通知表には必ず目を通し)など学習への意欲が向上するように働き掛ける。 ・スポーツ少年団や部活動、委員会活動をバックアップする。
		○	○	学校場面で他児の意見に流されず、自分の意見を述べる事が出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会、班会や委員会、級友同士の遊びなど学校場面で意見交換や採択する場合、人の意見に流されることがなく自身の意見を自信を持って述べられるようになることを奨励する。この目標について学校教育の評価と支援方法について懇談等を通じ話し合う。
		○	○	進路(就職、進学)について自分の意志で決定できる	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と職員と本人とで一緒に話し合いそれぞれの立場での意見を出してもらい、それを参考にした上で本人自身が自信をもって意志決定を行う。 ・学校で進路選択にあたっては、施設職員と一緒に検討するものの、最終決定は自分の意志を教員にぶれなく伝えられるように励ます。
		○	○	日用品や玩具、文房具、着衣等の購入時に適切な価格帯の中から好みの物を選択する。	<ul style="list-style-type: none"> ・土日を利用して生活に必要な用具や衣類、靴などの購入に子どもたちを連れ出す。
		○	○	生活で使うあらゆる物について選択し、使用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食器や掃除道具、衣類や靴などできるだけ自己選択を促す。適確な選択をし良い成果が得られたときに誉める。
		○	○	周囲に流されないで意見や行動を選択したり決定したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットや子ども同士で話し合う場面をとらえて、自身行動や意見を自分の納得を伴って選択できるよう促し、良い成果が得られたときに誉める。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
2：自己実現 ～夢を大切に実現できるよう努力する～					
				○ 設定された時間を上手に使いしっかりと遊びきる	・熱中できる遊びの材料（場所、物）を提供し、時間をたっぷり与える。
				○ 幼稚園場面で与えられた役割（リーダーや当番、楽器、配役など）をやり遂げる	・幼稚園生活を送る中で与えられた役割を自分なりに達成し、満足を得ているものについて共感し賞賛、時に励ます。
				○ 自分でやりたいと決めたこと（脱ぐ、着る、穿く、食べる等）を周囲の大人に主張しチャレンジする。	・どうしても時間的に制約がある場合を除いて主張を受け入れ、できるだけ最後までやり遂げられるように支援する。
				○ ○ 絵画や造形等のびのびと表現し、成果や作品を楽しむ。	・子どもの興味を示したがることに対して積極的に協力する。またアイデアを提供する。 ・芸術系の塾やクラブ活動、スポーツ少年団等のバックアップ。
				○ 自らに課題を課して挑戦し努力する。（有言実行）	・芸術や、スポーツや、学習等に自ら課した目標を達成できるよう励ます。
				○ 自分の考えを述べ、提案した事柄を具体化できるよう努力する。	・行事等を職員で一方的に決めてしまうのではなく、子どもに意見表明の機会を与え、共に考える共に作り上げる風土を作る。 ・施設生活について、子どもの提案を促し、良い意見はできるだけ吸い上げる形で具体化できるよう支援する。
				○ 能力に合わせた学習や取り組みをして達成感を味わう	・担任と連携の上補習授業などに参加させる。 ・連絡帳等で密接な連絡を取り合い、施設でも苦手部分の学習を補強する。 ・達成できたときには褒め、がんばりを評価する。 ・学習年齢に合わせた教材の提供を行う ・学習に付き添い、躓きを支える
				○ いろいろな体験をして社会経験を増やし達成感を味わう	・学校での行事やグループ学習など友達と取り組んで達成感を味わえるように協力する。 ・行事等を通じて体験する場面を用意する ・行事等に子どもの意見を取り入れ、実施する ・行事等で子ども達に役割を持たし、自分たちで達成する感覚を提供する
				○ 将来のことを考え、夢やしたいことを探す	・先生のいろいろな体験談を聞く。 ・学校の活動を積極的にして友達と自分たちの将来のこと夢を語り合うこと見守る。 ・社会体験活動を行う ・仕事を調べられる場面を用意する
				○ 担任、職員と将来、そして進路を相談する	・子ども達が相談するように促す。
				○ 目標（就職、進学、その他）を持ち具体的に行動できるようにする	・目標に向けて何をすべきか進言し具体的に行動できるよう協力する。 ・自分に合った目標の建て方の練習をする ・目標を達成するための計画作りを練習させる ・計画を実施し、目標が達成される成功体験を積ませる
				○ スポーツや芸術（美術、音楽、文学、料理等）を通じて技能と個性を磨き、目標達成のために努力する。	・努力によって得た賞などを生活の中で公表し賞賛するとともに、みんなで応援していることを伝える。時には試合や発表会に他児らを伴って出掛ける。
				○ 将来の目標に向かいステップを昇るよう計画的に努力する。	
				○ 現実を認識した進路選択ができる	・自分のやりたいことや望みに繋がるように相談に乗ったり進路先を見学に行ったりして現実的にしていく。 ・在籍中学や高校の職員と連携しながら、正しい進路情報を提供し、児童自らが進路を選択・決定できるよう奨励する。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
-------	------	-----	--------	------	------

3：自己有用感・自己効力感 ～誰かの役に立つことを喜び社会的自我の基礎を築く～

				○ 簡単なお手伝いやお使いができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・お手伝いのできる環境を作り実際やってみよう。 ・お手伝いができたことを評価し、してくれたことを褒める。
				○ 自分の役割を果たしクラスでの自分の存在感を感じる	<ul style="list-style-type: none"> ・一人では出来ないことが、みんなでやると素晴らしい成果を得られることについて強調し、子どもの担った部分が全体にとってどれほど重要な働きであったかを解説しつつ誉める。 ・行事等で役割を提供し、達成感を持たせる ・自分の仕事を成し遂げた信頼を得たことを自信につなげるよう褒め認める。 ・生き物を育てる。
				○ 自発的に支援職員を手伝ったり、お使いをしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の話し合い等の支援 ・談話室等の掃除支援 ・職員の忙しいとき、できるだけ子どもに協力を仰ぐ。 ・どのような時に手伝いが必要かを体験させる。 ・気づきを大切にす。 ・手伝いをしてもらうことにより生活の内容を理解してもらう。
				○ 自ら生活環境改善等についてのアイデアを出したり、実行する。	
				○ 子ども同士のもめ事を仲裁したり、他児のために力を貸したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・もめ事があった時は、職員に相談、報告をする。
				○ 自治会活動等で役割を担い、施設環境の改善について提言する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他児から推挙され与えられ果たせている役割について肯定的に伝えながら誉めたり励ましたりする。
				○ 自分の意見や思いを伝えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・意見をみんなの前でいえるように練習準備しておくよう促す。思い切った言うことができるように支援する。 ・職員が代弁をしながら、言って良いこと、言い方を学ぶ ・適切な言葉、言い方を使用する練習を行う ・適切な言い方ができたときには、ほめて強化する
				○ 頑張りや成長を認めてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と常に連絡を取り学校でがんばっていることは伝えてもらうようにする。そして褒め認める。 ・学校生活の中で採用された良い意見（スローガンや標語など）や作品（啓発ポスターなど）、学級や学校のために果たした貢献を誉める。 ・できた事を意図的にほめる ・失敗した場合は、できていたところまでほめる
				○ ボランティア活動などに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの役割や奉仕活動などに参加した際には評価し誉めて励ます。 ・理解し協力することを支援する。
				○ 友達、先生に自分の意見を聞いてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の話を聞いてくれる信頼できる人が獲得できるように支援する。 ・見守る。
				○ 家庭環境や自分の状況を理解の上進路選択する	<ul style="list-style-type: none"> ・現実と向き合えるようにおかれた状況を理解していない場合は伝える。
				○ 他者の成功を賞賛でき良さを認めあえる	<ul style="list-style-type: none"> ・人のできていることを意図的に職員が褒める。 ・クラブの試案など他者を応援できる場面を用意する。

4：自尊感情（自己肯定感） ～入所児が自身を大切な存在と感じ、I am OK! と思えること～

				○ 自身について適度な有能感を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・存在を褒める声かけを実施する ・児童個人の物、時間がきちんと守られるように配慮する ・何故、学園にいるのか、丁寧に説明する ・少し努力すればできる事を目標にして実施してみるよう促し、できたときには誉める。 ・目標を段階付けにし、今どの段階にいるのかわかるようにする
				○ 万（全）能感を口にする。	
				○ 自身に適度な有能感を抱き、自信をもって、あるいは励ましや勧めに応じて新しい事柄にチャレンジする。	
				○ 現実を受け入れながら、将来の目標や夢をより具体的なものにポジティブに修正する。	
				○ できることをこなせる	

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
-------	------	-----	--------	------	------

5：自己理解 ～思考パターン、行動パターン等の言語化（国籍問題やルーツを含む～

○				人と人との関わりの中で快や不快を感じ、感情形容詞を実際の自身の感情と一致して理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・何かあったときに「どうした？」と必ず確認する ・困っている、嫌そうな表情・行動をした時に声をかけ、困っていないか、嫌ではないか確認をする（感じているであろう感覚をこちらか意図的に言葉にするよう促す）。 ・他児の言動に巻き込まれたり、振り回されているときに、その状況を言葉で伝え、とるべき行動を促し、後にその時の感情を確認する。 ・暴力行為そのものには歯止めを実施 ・行為に至った気持ちを、一緒に確認し十分に認める
		○		言葉や手紙、日記などで自身や他者の感じ方、考え方、性格や能力、家族や友人との関係について語ったり綴ったり分析を加えたりする。	
		○	○	嫌な事があったときに、行動ではなく言葉で言えるようになる	
○	○	○		自分の気持ちを言葉で表現できるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・何かあったときに「どうした？」と必ず確認する ・困っている、嫌そうな表情・行動をした時に声をかけ、困っていないか、嫌ではないか確認をする（感じているであろう感覚をこちらか意図的に促す）。 ・他児の言動に巻き込まれたり、振り回されているときに、その状況を言葉で伝え、とるべき行動を促し、後にその時の感情を確認する。 ・暴力行為そのものには歯止めを実施 ・行為に至った気持ちを、一緒に確認し十分に認める

6：自己表現 ～失敗を恐れない心～

○				自分で食べる、自分で着る、自分で穿くなど、やりたいことを周囲に自己主張する。	・自己主張を認め、たとえ上手にできなくても出来ていることについて誉めながら次の意欲を養わせる。
○				感情を言葉で表す。	・場面をとらえて喜怒哀楽の表現を「○○しいねえ」と教える。
○				ことばを通して相手に伝えることや表現できる力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1で話す機会を多く持つ ・食事時や団らんの時間に話す機会を大人が話しかけることによって多く持てるように計らう ・不安や不満を行動ではなく言葉で表せるように代弁をする ・自分の意見を言う練習を行う
		○		文書に思いや考えをしたためる。	・日記や作文などに事実の記述だけでなく、思ったことや気持ちなどを書く。
		○		同年代の子どもたちの中で自分の考えを述べたり、提案をしたりする。	・ホーム会や誕生会、小学生会などで発言の機会を与え、発言できたこと、発言の内容について誉める。
		○		自分の思いや考えをまとめ、論理的に話したり文章で表現する。	・年齢に応じた文章表現についてアドバイスを与える。
○	○	○		スポーツや芸術（美術、音楽、文学、料理等）を通じて表現する	・良いところを伝え、励みに出来るよう支援する。

Ⅲ 対人関係

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
1：愛着形成（良好な二者関係の基礎） ～特定の職員との退行的時間の共有～					
	<input type="checkbox"/>			安心して身を任せて抱かれ、母乳（ミルク）を飲む。	<ul style="list-style-type: none"> ・担当と1対1で関わる時間を用意する ・出勤時に、心理状態を含めた生活状況を確認する ・対象恒常性が養われているかについてチェック。
	<input type="checkbox"/>			あやすと目を合わせて笑う。	
	<input type="checkbox"/>			愛着対象を目で追ったり、後追いする。	
	<input type="checkbox"/>			人見知りをしてぐずったり泣いたり分離不安を示す。	
	<input type="checkbox"/>			愛着対象（特定の大人）から叱られても応じて行動を修正する。（注：抑圧を受け隷従的に応じるのではなく、愛着対象を喜ばせたい思いで応じることがポイント）	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもそばにいてくれる。何かあったときにきてくれる。という信頼関係を維持する。 ・自分は大事にされている感覚を得られる様な言葉かけ ・適度なスキンシップ（頭なでる等）をしながら会話をする ・怖い体験をする場合にすぐに守られる状況をつくる
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		自分が守られていることの安心感を持つ	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		満たされた安定した大人との信頼関係により自尊感情の定着	
2：他者理解					
	<input type="checkbox"/>			身近な大人や子ども、絵本や物語の登場人物（人形や物など）に感情移入し、感じているであろう言葉を口にする。	・しっかりと子どもの話を聴く。
	<input type="checkbox"/>			相手の感情を察して適切に振る舞う。	・必ず職員をモデルにするので、職員が共感的に子どもに寄り添うことがポイントになる。
		<input type="checkbox"/>		他者の気持ちを理解する共感性を身につける	・感情の言語化から、思いを感じ取れるように支援する ・一緒に何かを成し遂げることをできるようにまたすように促す
3：集団適応（三人以上） ～他児との協調、他者への配慮を養う～					
	<input type="checkbox"/>			身近な大人と一緒に同年代の子どもの中で過ごす。	<ul style="list-style-type: none"> ・10人弱の環境で落ち居て過ごせるか確認する。 ・児童が複数になると、落ち着かない状況になる場合は、個人行動に戻す。 ・複数の児童との関わりが向上し始めたら、少しづつ集団場面、社会場面（外出等）を広げていく。 ・状況を子どもと一緒に振り返る。
	<input type="checkbox"/>			同年代の子ども同士で簡単なルールを決め、仲良く遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題なく参加できそうな行事を選び、成功できる状況をつくる。 ・成功できるよう、行事の仕方を工夫する。 ・得意科目で集中ができる時間のみ、登校を実施する。 ・登校時に失敗しないよう、職員が自主学習時に学習指導を個別に行なう。 ・友達を招いたり、訪ねたりする機会を増やす。 ・自由保育場面で他児に交じって関わりを持ちながら楽しく遊べるよう教員の配慮を依頼する。
	<input type="checkbox"/>			幼稚園等設定保育場面や行事等で、ルールに従い、他児等と協調しながら集団行動ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を招いたり、訪ねたりする機会を増やす。 ・自由保育場面で他児に混じって関わりを持ちながら楽しく遊べるよう教育の配慮を依頼する。 ・発達障がい傾向のある児など特別な配慮を要する場合には、学校教員に子どもの特性を説明し学校場面での工夫や連携について依頼する。
		<input type="checkbox"/>		施設の体育館やグラウンド等で同年齢他児、異年齢他児に混じって行動し、主張したり譲ったりしながら楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びを時折観察し、上手に遊んでいることやトラブルを上手に回避できていたことなどを話題にする。
		<input type="checkbox"/>		集団に生ずる軋轢やトラブルを解決するために努力する。	

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
		○	○	<p>集団の中で自分の欲求をある程度まわりにあわせながら、友達を大切に仲良く遊ぶ（友人関係に対する不安、不満の解消、グループ活動を通して友達とともに達成感を味わう）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内でも友達を呼んで交流が持てるように環境や雰囲気作りを支援していく。 ・友達があそびにきてもらえるように家の中の生活を落ち着ける。 ・心地よくなえてもらえるようにこころがける。 ・学校場面や放課後の時間や休日に学校の友達と交わって遊べるよう、子どもと交友を話題にする中で相互理解が深められるよう助言を与える。 ・職員が介入しながら、子どもの言葉を代弁しながら言葉の補足をする ・喧嘩の介入、整理、仲直りを促す ・相手が不快になる言動を指摘する ・がまんすることも覚え、家でそのことを話し発散できるようにする。 ・話を聞いてあげるようにする。 ・発達障がい傾向のある児など特別な配慮を要する場合には、学校教員に子どもの特性を説明し学校場面での工夫や連携について依頼する。 ・集団の中でとるべき行動を教え、できたらほめる ・自分の意見は言い、相手の意見と調整する練習を行う <ul style="list-style-type: none"> ・小グループ活動を計画し役割を持たせながら、楽しい体験を通して共感性や自信につなげていく。 ・積極的に参加できるように協力する。 ・班別行動やグループ活動に交わり、失敗を恐れず自信を持って意見を述べたり活動できるよう教員の配慮を願う。
			○	<p>集団に上手く馴染めない他児に配慮し、上手く交われるよう工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが他児に良い援助を与えていた際には見逃さず、できるだけ早い段階で支持し、誉める。

IV 社会生活

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
1：規範意識 ～社会的なままりを守る～					
				ひとりでする遊びや日常生活の中で物の使い方の習得を通して、社会性や理性を獲得する	<ul style="list-style-type: none"> ・大人と子ども一対一で遊ぶ機会をつくる。 ・1対1の関係の中に、一定のルールを設ける ・職員との遊びで自信をつけ、勝負に負けても受け入れられるようにする ・ルーティーン業務中も一緒にそのことを見せ話しかけ何をしているか教える。 ・共有のおもちゃ、本人所有のおもちゃ、他児のおもちゃを区別し、他児のおもちゃを使用したい場合には許可を得たり、本人所有のおもちゃを他児に貸し与えたりコミュニケーションを通じて社会性を養わせる。
				集団の中で協同する遊びを通して役割分担やルールのある遊びを覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・職員と共に他児と関わる場面を設定する ・友達の家に遊びに行けるように、友達に遊びに来てもらうようにして、友達と一緒に遊べる機会を増やす。 ・他児と関わる際に、良好な関係を築くように誘導する ・友達の親とのコミュニケーションも大事。 ・遊びや作業の中で異なる役割を担いながら協同（協働）によって何かを完成したり達成することで、他の人と繋がって一人ではできないことを成し遂げる成果を楽しめるよう導く。 ・ルールのある遊びを意図的に用意し職員も含め遊ぶ。
				日常生活の中で大切なマナーや道徳的な内容を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に生活する中で理解を促す。（食事の時、遊ぶとき、風呂に入るとき、団らんの時、etc） ・大人がモデルとなり声をかけ、促し伝えていく。 ・あいさつを中心に、生活の中で「ありがとう」「ごめんなさい」「いただきます」「ごちそうさま」「こんにちわ」「さようなら」など感謝や謝罪の言葉が自然と口に出るよう導く。 ・日常生活の中でのトラブルを好機として捉え、当事者である子ども達と振り返りをしながら、互いの誤解を整理しつつその行為が相手にどのように捉えられ何が相手を傷つけたかについて話し合う。
				集団の中で協同的に行動できる	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の目標を持って、グループによる活動を実施する。 ・旅行、キャンプなどでお出かけし協力してその行事を創り上げる。 ・家の中での自分の役割を理解し人に対する気遣いを覚えるよう促す。 ・児童間で自分の気持ちを適切な方法で言えるように練習をさせる ・児童間で相手の意見を適切な方法で聞けるように練習をさせる ・児童間で意見のやりとりができるような関係作りを行う
				主に遊びを通して集団でのルールや規範意識を育てる中で自己有用感を獲得する	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの共有物や借りた物を大切に使い、約束に沿ってきちんと返す。その際にお願いをしたり、お礼を言ったり、破損した場合には誤ることを教える。 ・スポーツ少年団、クラブ活動に参加させ規範を守る努力、自分の役割を理解し、人に気遣い協力することによって自分の存在感を確かめることを促す。
				おもちゃや自分の持ち物を大切に、他者のものも大切にする	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃなどを自分のルールなどでケースなどに片づけられるように手伝わす。 ・共通の持ち物を少なくして自分の物として大切にできるようにする。 ・共有物とは別に衣類やおもちゃに名前や目印（児童個々専用のキャラクターやビクトシールを貼るなど）を付け、他児の物と区別させる。 ・個別の収納場所を指定する。 ・自分の区域と、他児の区域を物理的に分ける ・借りたものを壊したり紛失しないように教える ・子どもと一緒に遊び、片付けをする中で支援する。 ・自分のものを大切に、それと同じように他者が大切にすることを理解するように教える。
				約束が成立する関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> ・支配的な関わりにならないように共存的な関係を教える。 ・信頼関係のできる付き合いをするよう促す。 ・生活支援職員など大人や他児と交わした約束を果たせた機会をとらえて賞賛し、信頼を築くことの大切さを教える。 ・約束した事項は必ず守り、できない約束はしない ・約束した事項はすぐに行う

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
		○	○	よいこと悪いことを判断し行動する	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに毎日学校であったこと友達のことについて話を聞いたりそれについて話したりして、様子を知る。その中でいいこと悪いことなど常識的な判断を教えることを盛り込む。 ・法律を通じて社会的なルールを教える。 ・学園のルールを通じて、ルールの解釈を教える。 ・良いことは褒め、悪いことを叱るしつけをお行う。 ・失敗した場合にとるべき行動を教える。
2：適切な金銭感覚の獲得					
	○			大人と一緒にお金で買い物できる	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の価値を教える。 ・お金の種類を教える ・お金で物が買えるしくみを教える（模擬体験学習） ・子どもと一緒に買い物に行く機会を増やす。 ・幼稚園の園外保育等おやつを購入する場面などを捉えて、お店の人に代価としてお金を渡すことが理解できるように支援する。 ・普段、遊びの中でお店屋さんごっこ等でシミュレーションしておくが良い。
		○		決められた金額の中で買い物をする（通帳でお小遣いを貯める短期的な貯金計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のお金の管理に通帳、小遣い帳を使う。その中で大人と子どもとが相談しながら、自分が考えて買い物する体験を行う。 ・毎月、小遣いの中から本人専用の通帳に貯金し、貯まったお金をどのように使うかについて話し合い計画する。 ・月の小遣いより高額な物は目標金額を設定し貯めてから使うことを教え体験させる。 ・数字の概念や数え方（足し算、引き算）を教える
		○		お金の価値がわかり、物を大切に作る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の持ち物を大切にすることから教える。 ・無駄遣いをなくすようにお金の使い方（買い物）を指導する。 ・もらったもの、家財などその心の価値、物的な価値の度合いを理解するよう大人が伝える。 ・自分の物を大事にされている感覚が得られるような体験を行う ・特定の職員（愛着対象）の物を大事にできる場面を用意する ・物を大切にすることとは、買ってくれた人、作った人、そのものに話した人の心を大切にすることにつながることを伝える。 ・お金が手に入る仕組みを教える。
			○	アルバイト等で働くことでお金の価値を理解しながら将来の目標に役立てる	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の許可が得られる場合、アルバイト就労させ、労働の対価としてお金が支払われることを理解し、自立資金を蓄えながら継続的に適切な使用の仕方を話し合う。 ・職場見学やいろいろな社会体験を通して、その現場で働いている人の苦勞を理解する。 ・またアルバイトを通してその仕事がどれくらいの価値と認められているか実感させたい。 ・自分が今後必要となる金額を具体的に調べさせる体験をさせる。 ・自分の稼ぎたい金額設定と、実労働で得られるお金の感覚をつかませる。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
3：社会参加 ～地域活動等に参加する～					
	○	○		地域子ども会へ参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収などの各活動について、地域社会への参加であり積極的に参加するように促す。 ・地域でのポジションを得る。 ・大人も地域の活動に参加し地域に貢献する。
		○		近所や友達の家遊びにでかけた際に挨拶や時間通り帰ってくる	<ul style="list-style-type: none"> ・外出カードなどを用いて、行き帰りの時間や行き先を伝える。 ・普段から友達の親御さんとコミュニケーションを取り、いつでも連絡を取れるようにしておき子ども達が双方を行き来できるようにする。その上で情報交換し指導する。
		○		役員の選出に関わることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な関わりを応援する。
		○		定期的な役員会に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活を話し合える役員会になるように、代表の役員を決める。 ・役員会に参加することによって責任感、行動力を養う。 ・自主的参加を促し励ます。
		○		スポ少等に参加することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・スポ少等に参加することによって集団での規範、ルールなどの中での活動を覚え、仲間との協力、達成感を得ることができる。 ・積極的に参加できる体制を創ってあげる。 ・少年団で失敗しないように情報の共有を行う。
		○	○	場面に応じた言葉づかいができる	<ul style="list-style-type: none"> ・外出時、来客時等を利用し、いろいろな場面に顔を出すことによってその場に合った態度や言葉遣いができるように助言していく。 ・年上の他児や目上の人に敬語を使って話すことができるように教える。
			○	ひとりで交通機関を調べて利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ・まず近所のバス停の時刻表から時刻表とパソコンなどで調べるところを教え、最後は人に聞くことを教える。 ・大人と一緒に体験（例えば旅）することもよい。 ・機会をとらえて子ども達だけで公共交通機関を利用させるなど、自立を見据えた働き掛けをする。 ・交通機関の仕組みを知り、方法を学ばせる。
			○	積極的な清掃等のボランティア活動に参加できる	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や学校の自治会活動や、コミュニティ主催のボランティア活動（清掃や資源回収など）への理解と参加を促す。 ・たくさんの社会経験のうち、人に感謝されたり褒められたりすること、自分の存在感や充実感、嬉しさを味わえることを体験する。 ・職員と一緒に行動する姿をみせる
			○	社会経験を(実習、アルバイト、ボランティア活動など)を積み将来の生活に備える	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経験になるような活動には積極的に進め参加を促す。 ・アルバイトを通じ働く体験をおこなう ・継続できるように、立ち振る舞い、対応方法を練習し実践させる
			○	社会情勢や情報に関心を高め現実の利益や自立した生活を築く	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、テレビ、本、パソコンなどの情報を得ることができるようにする。 ・生活の中でテレビのニュースや新聞記事、インターネットや携帯サイトの情報について話題にして解説したり子どもの疑問に答える。 ・大人がニュースや新聞に関心を持つ姿を見せる。 ・いろいろな社会経験を積むことに協力する。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
4：性モラル形成					
				異性との体の違いを認識する・体の部分の役割を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本、模型、人形や紙芝居、エプロンシアター等で体の部分の名前や役割を教える。 ・内蔵等の体の機能を中心とした性教育 ・入浴や水浴、排泄等の機会をとらえ児童の疑問に理解度に合わせて丁寧に答える。 ・着替え場面で異性に対して恥ずかしいことを教えていく。 ・プライベートゾーンを教える。
				二次性徴を迎える準備	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で実施される性教育を材料としながら、体の変化は勿論のこと心にも変化が生じることを教え、誰にも起こりうる変化として心配しないでいいことを伝える。 ・特に女の子は初潮をネガティブイメージを抱くことがないよう、喜ばしい変化として伝え、報告があった場合には共に成長を祝える雰囲気作りを心掛けるに受け止めることがないよう注意する。 ・性衝動、情動コントロールを行う練習
				他者との様々な違いについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・『男の子』『女の子』の体の違いについて ・自分の存在、他者の存在を理解できるようにいろいろなグループに顔を出し共に活動する機会を勧める。 ・自分の特徴、人の特徴を職員と一緒に確認する
				身体の成長について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・二次性徴期について ・時期を見て正しい知識を子ども達に伝える機会を設ける。
				命についての理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が大切にされていると実感できるような関わりをする。 ・動植物の世話などを任せる。
				「大切なわたし・大切なあなた」の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の体を傷つけない。」「他人を傷つけない。」お互いを思いやる生活をさせる。
				デートDV等の犯罪や人権侵害について適切な理解をする	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害についての考え方、性被害を防ぐためにどうしたらいいか勉強会、意見交換の機会を作りこのことについて考える。 ・新しい職員に恋話（片思いや憧れ）をしてきた機会をとらえてデートDVや性犯罪を話題にし、被害に遭わないための予防や被害者となった場合の物理的・精神的痛みや社会的制裁等について話し合う。 ・命を生み出すことの責任の重さや、中絶することの責任の重大さ、適切な避妊法について教え、何でも職員に相談できる雰囲気作りに努める。 ・自分の身の守り方、立ち居振る舞いで身の守り方の学習の提供。 ・法律に基づいた行動の指導。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
5：リーピングケア					
			○	簡単な食事やおやつ作り	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的簡単な食事作りの体験の支援。食事を一緒に作り、指導をする。 ・自ら決められた食材で、決められたものを作らせる。 ・自分で作りたい物を決め、それに合わせた食材の購入をさせ、作らせる。 ・日常生活の中で、大人と一緒にすることから自分でできるように導く。
			○	職場体験・職場実習支援と地域企業やハローワークとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域資源の活用、児童の意思を確認しながら協力や支援ができるネットワークづくり。 ・ハローワークの利用の仕方を大人と一緒に行って実際に求人活動をしてみることで利用法を学ばせる。 ・職を決めるに当たっているいろいろな可能性にチャレンジすることを進める。 ・中学校や高校等で行われる職場体験学習の機会をとらえて、働くことの意味と目的について児童と話し合う機会を設ける。 ・必要に応じて企業訪問、ハローワーク訪問に同伴する。（ただし、職員は決して前面に出ないよう心掛け）
			○	生活技術を身に付ける（食生活・生活器具・健康管理等自立支援プログラム）	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士、看護師と調整し生活リズムの定着。 ・バランスの良い食事作りや生活環境作りの支援。 ・施設の親子訓練棟（室）や自活訓練棟（室）を活用して自炊させるなど擬似一人暮らし体験を計画的段階的に実施する。体験直後に職員との振り返りの時間を設け、評価を与え強化すべき点について児童自らが考えられるよう支援する。 ・自ら生活日課を作らせ、生活体験をさせる。 ・生活で困った際に、助けを求められる機能を繋げる。
			○	衣類の管理（場に応じた衣類の調整、クリーニング等）	<ul style="list-style-type: none"> ・スーツや必要な衣類の購入等。 ・季節の服を選ぶ。 ・TPO似合わせた服を選ぶことを教える。 ・自分で洗濯をして、洗濯された衣類の整理や交換をする。
			○	金銭の管理（カードローンや消費者金融の正しい理解）	<ul style="list-style-type: none"> ・給料明細の見方や生活にかかる光熱費等の支払い援助（ハンドブック等を活用して説明し教えていく） ・消費者センター等のリーフレットを用いて指導を行う。 ・振り込め詐欺や架空請求等に欺されないための対処法を解説すると共に、困ったときには退所後であっても施設職員に相談するよう伝える。 ・講師をよんで、世の中で起こっている金銭に関わる問題を教えてもらい子ども達に正しい情報を入れる。 ・正しいお金の管理を実践してみる。 ・就職を見据えた銀行口座開設や既に開設している口座の出入金に付き添い、やり方と教え、させてみる。
			○	居住空間の獲得管理（不動産等の契約について）	<ul style="list-style-type: none"> ・施設退所後にアパート自立を検討している児について、退所数ヶ月前に職員と一緒に不動産屋回りをし、敷金（保証金）、礼金や初度調弁（家具や家電等の購入費用）、引っ越し費用などの初期投資と、家賃や管理費についてのランニングコスト等をシミュレーションしながら具体的に生活をイメージできるよう理解を促す。契約において気をつけることを教える。 ・居住先の選び方も教える。 ・住所変更の仕方の指導 ・保証人の理解と賃貸についての指導
			○	個人情報の管理や出会い系サイト（携帯電話の利用）等の犯罪の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・被害に遭わないように対策を教える。 ・専門家を呼んで留意点を犯罪の危険性をこどもたちに知らせる。 ・高校生等年長児が施設から支給の訓練費やバイト収入等で携帯電話を所持する場合、事前に携帯電話及び携帯サイト（出会い系を含む）の利便性と危険性についてリーフレット等を用いながら説明し、注意を喚起する。 ・事件性のものに巻き込まれた際の対処法の学習
			○	社会人、職業人に求められるマナーの習得	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトなど社会の中でマナーを覚える機会を作る。また、直接伝える機会を持つ。 ・社会人となる上での基本的な心得「礼儀、作法、法律や就業規則の遵守」について、何故そうしたことが社会生活に必要であるかについて説明の機会を設ける。 ・受け答え、格好、言葉遣いの指導。
			○	生活に必要なお金について具体的に理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・施設生活が長い児にとって生活費が具体的にどの程度かかるかについて分かっていない場合が少なくない。 ・アパート自立した場合には大まかに食費、光熱水費、被服費、交際費、交際費（原付自動車や車を所有する場合の税金、保険、燃料代を含む）が月にどの程度必要かなどについて説明し子どもと一緒にシミュレーションをする機会を設ける。
			○	就職や進学に必要な資格手続きを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検定の受験、進学希望先の受験、自動車学校入校、自動車免許受験、住民異動などの手続きと支払を職員がサポートしつつできるだけ児童自身に行わせる。

V 学校との関係

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
1：進路の支援（選択）					
2：安定した通学					
3：施設における学習					
				○ たくさんの文化、スポーツなどにふれる	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことに興味を持たせるように体験を増やし選択肢を広げる。 ・幼稚園の保護者会などで、より質の高い芸術鑑賞や芸術教室、スポーツ観戦やスポーツ教室等の行事企画を提案したり、施設で協議会や支援団体の協力を仰ぎ、機会を設ける。
				○ 日々の学校の宿題を確実にこなす	<ul style="list-style-type: none"> ・正答を回答することに固執するのではなく、担任教員との約束を果たす（やりとげる）ことを支援する。施設の支援職員は教員的な関わりとならないよう心掛ける。たとえば子どもの導き出した答が間違っていたとしても、翌日の学級の学習の中で修正できれば良い。
				○ 基本的な学力の定着、ひらがな、カタカナ、九九など基本的なところを獲得する	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を、学校と連携して支援していく。担任と連絡を取りながら根気よくつき合って励まして学習意欲を高めるよう関わりながら定着を目指す。 ・学習障がい傾向のある児など特別な配慮を要する場合には、担任教員等に子どもの特性を説明し学習の工夫や連携を依頼する。 ・自主学習の保障
				○ 自分の能力に合わせて個別的に伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの良いところ足りないところを把握できるように学校と連絡を取りながらそれに取り組む。 ・一人ひとりの好きな分野、得意な分野を知り、認めたり誉めたりすることで持っている力を伸ばせるよう支援する。 ・得意な物をできる環境を整える
				○ 文化・スポーツ活動へ積極的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・参加するために準備を整えモチベーションを高め送り出す。 ・クラブ活動、部活動への積極的な参加を勧める。
				○ 学習環境を整え課題克服の努力をする	<ul style="list-style-type: none"> ・机、文房具、参考書などを必要に応じて揃える。 ・毎日の学習時間を設定し個別に集中して学習できる環境を整える。 ・学習強化支援（学習ボランティアの利用）
				○ 目標に向けての学習環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教科をどういった時間配分で学習するか一緒に考える。 ・子どもの学力によっては学習ボランティアや家庭教師、塾の利用を検討し活用する。 ・個別の学習時間を設け実施する
				○ 目標に向かっていく意欲を持ち自ら行動する	<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションを与えるように情報を提供する。 ・志望進学先への受験に向けた学習保障を行う。 ・必要に応じて、検定や資格試験の受験を支援する。
4：部活動					
				○ 文化・スポーツクラブに参加して活動により社会見聞を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に入部（必要な諸経費について支援する） ・支援職員もPTAとして活動の場に行き協力する。 ・子どもの希望に応じて、地域の少年スポーツクラブや芸術教室、PTA主催のスポーツ少年団や子供会交流行事に参加させ、見聞を広げられるよう援助する。
				○ 部活動を続ける	<ul style="list-style-type: none"> ・入部前に諸費用（ユニフォーム一式の代金や道具一式の代金、月毎の活動費や遠征費等）について説明し、簡単に辞めたり転向したりしないよう約束を交わす。その上で、継続することの大切さや経験によって何をしようとし、何が得られるのかについて話し合う。 ・励まし、がんばりを認めてあげる。 ・子どもが能力の限界を感じたりくじけそうになったときには相談に乗り、継続できるよう支える。 ・保護者（支援職員）で分担する役割があればそれを担い、活動を側面的に支援する。 ・その他いろいろ
				○ 部活動を通じて仲間を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間を大切にすることを教える。 ・仲間と支え合ったり助け合ったり出来ていることを第三者の目で客観的に評価し、承認を与える。
				○ 仲間との協調と目標への努力達成感を味わう	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成それに至る努力を評価し共に喜ぶ。

VI-1 家族との関係調整・家庭復帰に向けた取組（主たる保護者）

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	主たる保護者の目標	支援方法
1：施設入所にいたった経緯の理解					
				家族が、なぜ施設利用に至ったかの状況を理解している	・児相ケースワーカーと面談し確認する。 可能であれば園としても保護者に聴取確認する。
				家族の生活史、家族の情報を話している。	・アセスメントの段階で児相が完了すべき内容であるが、園としても人間関係を作った上で重ねて確認する。
				入所セレモニー（式）への参加	・28条等保護者の同意なき入所の場合を除き、できる限り入所セレモニー（式）に参加してもらい、子どもが施設生活の中で何をどう頑張ろうとしているかの気持ち聴くと共に、保護者自身が再び子どもと一緒に暮らすためにどう努力していこうとしているのかについて表明するよう促す。（親子の関係が切れたり、希薄（施設育児依存的）になったりしないよう努める）
				児童への行為や、主訴に対する改善の意識を持っている	・入所時アセスメントに不十分な部分について繰り返し面接を行う中で、主訴への改善意識を持ってもらい家庭復帰を目標に据えながら努力を認めつつ、励ます。
2：生活状況					
				入所前の生活状況を話す事ができている	・児相、及び施設に心を開いてもらえるよう面談を繰り返す。 ・入所後の子どもの様子を伝え、支援職員の養育態度や関わり方について説明し理解を促す。
				保護者への支援をする大人（キーパーソン）が周囲にいる状況である	・キーパーソンの協力について保護者と打ち合わせながら家族にとっての最善の利益は何かを考えてもらう。
				家に出入りする大人の把握、調整ができている	・家庭調査を行い実態を把握する。
				子どもにとって適切な養育環境（性的環境も含む）が整えられている	・保護者と話さないながら、適切な養育環境を整えるために何が不要で、何が必要かについて一緒に考える。
				家族のストレスフルな状況（虐待リスク）が軽減されている	・保護者の状態に応じてカウンセリングなど専門的な支援を検討し、必要があれば専門相談機関や医療相談機関を紹介し、連携を図る。
				子どもが家庭で過ごす時間帯（特に夜）は、必ず大人が共に過ごせる状態にある。必要に応じて、祖父母や親戚などの協力を得ることができるよう約束が交わされている。	・家庭訪問や面談を繰り返し、家庭状況を把握して今後について一緒に考える。
3：経済状況					
				所得、出費、借金等、子どもの生活に関わる経費について話をすることができる	・相談に乗ることもあり、その時は関係機関（簡易裁判所、家庭裁判所、福祉事務所、職業安定所等）に紹介したり、ソーシャルワークの支援を行う。保護者の状態に応じて成年後見人制度の利用を勧める。
				子どもを養育するための必要最低限の経済状況が整っている	・保護者に安定した就労を勧めアドバイスする。 ・家庭訪問、面談を繰り返し家族の経済状況、生活実態を把握し指導を行う。
				適切な経済観念が備わっていて、公的な経済支援を受けられる状況にある	・安定した生活を望み何とかしようとして動き出すよう促す。 ・ギャンブルや過度な嗜好依存等があれば話し合い、改善を促す。
				仕事に就いている若しくは、社会保障等により収入が安定的に確保できている	・手続きやどのような保証があるか紹介する。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	主たる保護者の目標	支援方法
4：子どもの状況に対する理解・対応					
				子どもの特徴、疾患、2次障害を理解している	・必要があれば子どもを病院に受診させ、医師の診断、指示など情報を正確に保護者に伝える。
				二次障害と家族の行為との関係性を理解している	・保護者に客観的状況を解説する。
				子どもに向かって、存在を否定するような言葉や脅しの言葉、暴言を吐かない	・園での取り組みを紹介し、対処法をアドバイスしたりペアレントトレーニングを実施する。
				子どもに向かって表情や動作による威圧、暴力を用いた養育を行わない	
				子どもに適切な躰を行なうことができる	・どうしてそのように振る舞うことが良いのかについて説明し、子どもが理解し納得した上で行動できるようアドバイスする。
				子どもの話を聴き、共感したり、一緒に考えたり、共に問題解決に向けた対応ができる。	・子どもに寄り添う姿勢をアドバイスする。
				子どもの問題行動に対し、適切な対応を行なうことができる。	・叱責時は決して人格（存在）を否定せず、子どもの好ましくなかった言動に局限して叱るよう心掛けることをアドバイスする。
				子どもが医療（薬物・入通院）を必要とする際に、適切な対応を行っている	・事前に保護者に詳しく説明しておく。
5：家族自身の対人関係・社会性					
				約束を守る事ができる	・面会、面談、約束した時間を守るよう注意を喚起する。
				施設の支援を受け入れる	・顔を合わせて話し合うことを通して人間関係を構築し理解を促す。
				不満や不安を適切に処理できる	・困ったときには施設や児童相談所に相談するようアドバイスし、必要に応じて実際に援助する。
				反社会的行為を行っていない	・反社会的行為を感じたときは注意し改めるよう促す。 (例えば飲酒運転)
				公共機関への提出物を適切に処理できる	・わからないことについてはアドバイスしたり、実際に付き添って行動するなどの支援を行う。
				感情のコントロールができています	・対処法、気分転換の方法をアドバイスする。
				自身の育ちの問題を整理できている	・保護者の話にしっかりと耳を傾ける。
				自身の能力に合わせた対処法がとれる。	・自身置かれている状況を把握できるよう必要に応じて解説を与えたり、利用できる福祉サービス制度等を一緒に考える。
				子どもへの行為に対する振り返りができている	・面談等において過去の家族関係を振り返り、今後どうしていけば良いかについて話し合う。
				相談できる適切な相手がいる	・ここと言うときに相談できるひとがいるか確かめる
6：家族の疾患について					
				家族が、自身の疾患（身体・精神）を理解、把握し、対処している。	・面談等を通じて状態を確認し、必要に応じて適切な治療を受けるよう勧める。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	主たる保護者の目標	支援方法
7：家庭復帰に向けての援助					
				電話連絡等が問題なく行なえる	・定期的な電話連絡を求めたり、施設側からも定期的に連絡を取る。
				面会や外出、施設内宿泊が問題なく行なえる	・保護者と子どものお互いの気持ちがほぐれ、親子関係が再構築され面会から外出、外泊へとステップアップしていく。
				家庭訪問を受け入れる	・施設、児相と良好で安定した関係を築けるよう支援し、し、面談、面会、家庭訪問を繰り返す。
				外泊訓練が問題なく行なえる	・定期的に短期の外泊を繰り返す。 ・子ども保護者双方から帰宅外泊時の様子を聴取し、その都度評価を返す。
				長期外泊訓練が問題なく行なえる	・短期の外泊を積み上げ、様子を見て期間を延ばしていく。
8：関連機関との調整					
				学校と良好な関係を維持、継続できる	・学校と家族の関係調整。
				福祉事務所、保健師等市町村、県との連携機関と関係が取れている	・必要に応じて家族を支えるであろう関係機関が集まって支援会議を開催し、支援体制を整える。
				児童の地域の福祉サービス、施設利用ができる	・どのような福祉サービスがあるか紹介する。
				児童の治療について医療機関との連携が取れる	・医師、ケースワーカー、施設、保護者とで今後の治療方針を確認する。
				地域と良好な関係を繋いでいる	・必要に応じて民政児童委員や民生委員等との連携・協力を要請する。

VI-2 家族との関係調整・家庭復帰に向けた取組（児童本人）

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
1：入所の理由の理解					
				施設入所となった理由を理解している	・幼児以上の子どもについては児相児童福祉司、施設支援職員から機会を捉えて、子どもに分かりやすい表現で説明を繰り返す。子どもの疑問・質問には丁寧に答える。
				入所の挨拶をする	・入所セレモニー（式）などの機会を捉えて、挨拶し、施設生活の中でどんなことを頑張りたいか気持ちを話せるよう支援する。 （同席の保護者にも再び子どもと一緒に暮らすために努力することを表明してもらい、子どもに安心感を与えて施設で生活を始めることへのモチベーションを高める。）
				退所できる状況を理解している	・家族の状況、子ども自身の状況がどうなれば退所の条件が整うのかについて説明する。保護者と確認の上、目安となる目標期日を設定し、子どもに安心感を与える。年度末が近づくと確認し、子どもの疑問・質問には丁寧に答える。
2：親への気持ちを表現できる					
				大人に自分の気持ちを適切な方法で示す事ができる	・カウンセリング担当者や生活支援職員が子どもの話に耳を傾ける。
				親に対する気持ちを文書や言葉で示す事ができる	・機会を捉えてカウンセリング担当者や生活支援職員が子どもの親への思いに耳を傾ける。
				親に自分の気持ちを文書等で伝える事ができる	・子どもが手紙等を用いて、親に自身の気持ちを伝えることを支持し、支援職員が仲介する。
				親の不適切な要求を断る事ができる	・嫌なことは「嫌」と断れるようになることを支持し、支援職員が仲介する。
3：親との関係作り					
				親と物だけのつながりとなっていない	・人とは気持ちで繋がることを日々の生活の中で感じられる支援を心掛ける。学童以上の児には、「物は気持ちを表すのに有効なツールにもなるが、大切なのは物ではなく、物に込められた気持ちの方」である旨を、機会を捉え子どもに分かりやすい表現で解説する。
				親と電話で通話したり、面談したりできる	・支援職員が同席して親との電話を受電・架電して通話を支えたり、相談室などを用いての親子合同の面談を支える。必要に応じて、心理療法担当職員や家庭支援専門相談員等が担う。
				親との支配関係から抜け出せている	・日常的に子どもの状態や症状に目を配ったり、言葉で表現できる子どもについては質問し回答させる。 ・子どもの不安や緊張の度合いについて、職員会やケースカンファレンス等を通じ複数の職員で定期的に評価する。
4：親と過ごす練習					
				短時間、親と良好な関係を保ち過ごすことができる	・施設や児相の面会室や親子宿泊室等を用いて親子水入らずの面会場面を設定する。
				半日程度、親と良好な関係を保ち過ごすことができる	・施設の面会室や親子宿泊室、外出等親子水入らずで過ごせるよう支援する。
				一日、親と良好な関係を保ち過ごすことができる	
				親と一緒に宿泊し良好な関係を保って過ごすことができる	・施設の親子宿泊室や帰宅の一泊を設定し、家族水入らずで過ごせるよう支援する。
				親と共に数日間（複数泊）、良好な関係を保って過ごすことができる	・施設の親子宿泊室や帰宅、保護者実家への帰省等複数泊を設定し、家族や親戚と過ごせるよう支援する。その都度評価を返し、様子を見ながら段階的に泊数を延ばしていく。

カテゴリー	乳・幼児	小学生	中学・高校生	児童目標	支援方法
5：自身の身の守り方					
				危機が迫った場合、逃げ出す場所がある	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅中や帰省中などで親子関係喧嘩となり危険を感じたり、いたたまれなくなった場合には、近所の親しい人の家に逃げる、或いは施設や児童相談所に連絡することを教え、帰宅時には緊急時の連絡先を記した物を持たせておく。
				相談をできる相手、場所がある	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的には施設や児相が相談に乗るが、措置変更の場合は措置先の施設、遠隔に転出する場合には現地の相談機関や医療機関と連絡調整し繋いでおく。
6：退所について					
				入所時の問題がほぼ改善している	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身の問題、家族の問題が共に改善していたとしても、入所期間中の親子の空白期間があるため、それを埋めるための親子間の擦った揉んだが予想されることを親子双方に伝え、困ったことがあれば何でも相談してほしいと伝えておく。
				退所の挨拶をする	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしたユニット（ホーム）・施設の職員や他児らに向けて「お別れ会」や「卒園を祝う会」等の機会を捉え、挨拶を促す。
				福祉サービス等の支援を受けられる状況にある	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスや自助グループ、児童施設退所当事者団体等を紹介し、必要に応じて繋ぐ。
				他の入所施設で適応できる状況にある	<ul style="list-style-type: none"> ・措置変更先の施設と連絡を取り、綿密な引き継ぎを行う。必要に応じて、子どもを伴って変更先の施設を見学したり、体験入所を設定、実施する。